

北竜町農業再生協議会（北海道北竜町）

組織の概要

- 町内3つの営農組合の合併により、H29年に設立した農事組合法人
- 3戸の農家で構成
- スマート農機の導入を積極的に行い、低コスト化を推進

生産概要

- 【作付面積】水稲：78.76ha、小麦：12.48ha、大豆：14.65ha（R4年）
- 6年輪作（大豆→麦→水稲）を基本に需要に応じた作付を行う。
- 基盤整備事業（H26～）により、汎用化水田を整備。経営を安定化し所得の増加を図るため、法人設立を契機に、大豆の作付割合の増加を図る。

取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 複数の実需者との意見交換を年1回実施し、作付けする品種を決定。現在、実需者の要望を踏まえ、新品種への切り替えに取り組み中。

<団地化の取組>

- 作業効率の向上及び湿害の軽減を図るため、話し合いを行い団地化とブロックローテーションを推進。

<機械の導入>

- スタブルカルチ、マニアスプレッダーの導入により、耕運や堆肥散布作業が効率化され、面積拡大後も適期作業が可能となった。また、草カルチ、GPSナビキャストの導入により、除草や肥料散布作業の精度が向上し、収量・品質が向上した。
- 心土破碎による湿害の軽減、土壌診断に基づく土作りにより収量の高位安定化を図った。



GPSナビキャスト

取組成果

<大豆の高位安定化を実現>

- 大豆の作付面積が2.1倍に増加

作付面積：7.03ha（R3） → 14.65ha（R4）
（R6目標：14.42ha）

- 団地化率の増加や、湿害対策技術の導入及び土壌診断に基づく土作りの実施により単収が9%増加

団地化率：0%（R3） → 79.1%（R4）
（R6目標：82.2%）

単収：188kg/10a（R3） → 205kg/10a（R4）

大豆の作付面積及び団地化率推移

